

別記様式

## 議員派遣報告書（閲覧用）

平成25年10月31日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 渡辺 信行 印

岐阜県議会議員 岩井 豊太郎 印

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

派遣目的	ドイツ・パラグアイの農業事情調査及びアルゼンチン・ブラジル・ペルー海外連携調査
行程表（別紙のとおり）	
派遣成果（詳細は別紙のとおり）	
日付	成果の概要
8月20日	(ドイツ・フランクフルト市) クラインガルテン（市民農園）視察
8月22日	(アルゼンチン・パラデロ市、ブエノスアイレス市) アルゼンチン日本国大使公邸訪問 ギアリンクス・パラデロ農場視察・岐阜さくらの会による桜の植樹 アルゼンチン岐阜県人会創立40周年記念式典
8月23日	(パラグアイ・アルト・パラナ県) パラグアイ共和国・イグアス農協役員との面談・農場視察
8月24日	(ブラジル・サンパウロ市) ブラジル岐阜県人会との意見交換会
8月25日	(ブラジル・サンパウロ市) 岐阜県人ブラジル移住100周年・ブラジル岐阜県人会創立75周年記念式典 日本館視察
8月26日	(ブラジル・グアラレマ市) 移住地視察
8月27日	(ペルー・リマ市) 在ペルー日本国大使館表敬訪問 日本ペルー修好140周年記念ゆきこま会ペルー公演鑑賞
8月28日	(ペルー・リマ市) ペルー日系人協会主催日秘修交140周年交流会 ペルー岐阜県人会創立30周年記念式典

県政に活用できる事項

県 担 当 課	内 容
国際戦略推進課	南米3国各県人会との連携強化と連携事業の拡大
農政部関係課	市民農園の運営 パラグアイとの農業連携

収集資料（別添のとおり）

別記様式

## 議員派遣報告書（閲覧用）

平成25年10月31日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 藤 墳 守 印

岐阜県議会議員 酒 向 薫 印

岐阜県議会議員 郷 明 夫 印

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

派遣目的	パラグアイの農業事情調査及びアルゼンチン・ブラジル・ペルー海外連携調査
行程表（別紙のとおり）	
派遣成果（詳細は別紙のとおり）	
日付	成果の概要
8月22日	(アルゼンチン・パラデロ市、ブエノスアイレス市) アルゼンチン日本国大使公邸訪問 ギアリンクス・パラデロ農場視察・岐阜さくらの会による桜の植樹 アルゼンチン岐阜県人会創立40周年記念式典
8月23日	(パラグアイ・アルト・パラナ県) パラグアイ共和国・イグアス農協役員との面談・農場視察
8月24日	(ブラジル・サンパウロ市) ブラジル岐阜県人会との意見交換会
8月25日	(ブラジル・サンパウロ市) 岐阜県人ブラジル移住100周年・ブラジル岐阜県人会創立75周年記念式典 日本館視察
8月26日	(ブラジル・グアラレマ市) 移住地視察
8月27日	(ペルー・リマ市) 在ペルー日本国大使館表敬訪問 日本ペルー修好140周年記念ゆきこま会ペルー公演鑑賞
8月28日	(ペルー・リマ市) ペルー日系人協会主催日秘修交140周年交流会 ペルー岐阜県人会創立30周年記念式典

県政に活用できる事項

県 担 当 課	内 容
国際戦略推進課	南米3国各県人会との連携強化と連携事業の拡大
農政部関係課	市民農園の運営 パラグアイとの農業連携

収集資料（別添のとおり）

# ドイツ及び南米4国視察調査/訪問報告書

平成25年8月19日 ～ 平成25年8月31日

岐阜県議会議員                      渡 辺 信 行

岐阜県議会議員                      岩 井 豊太郎

岐阜県議会議員                      藤 埴        守

岐阜県議会議員                      酒 向        薫

岐阜県議会議員                      郷        明 夫

※藤埴、酒向、郷は8月20日から南米4国視察調査/訪問を実施

## 行程表

月 日	日 程	宿 泊 地
8月19日(月)	出国(渡辺・岩井)	フランクフルト
8月20日(火)	クラインガルテン(市民農園)   出国(藤墳・酒向・郷)	機中泊
8月21日(水)	移動	ブエノスアイレス
8月22日(木)	アルゼンチン日本国大使館公邸訪問 ギアリンクス・パラデロ農場視察・岐阜さくらの会 による桜の植樹 アルゼンチン岐阜県人会創立40周年記念式典	ブエノスアイレス
8月23日(金)	移動 イグアス農協役員との面談・農場視察	イグアス
8月24日(土)	移動 ブラジル岐阜県人会との意見交換会	サンパウロ
8月25日(日)	岐阜県人ブラジル移住100周年・ブラジル岐阜 県人会創立75周年記念式典 日本館視察	サンパウロ
8月26日(月)	移住地視察(さくら高森耕地(旧岐阜県村)) 移動	リマ
8月27日(火)	在ペルー日本国大使館表敬訪問 日本ペルー修好140周年記念ゆきこま会ペルー 公演鑑賞	リマ
8月28日(水)	ペルー日系人協会主催日秘修交140周年交流会 ペルー岐阜県人会創立30周年記念式典	リマ
8月29日(木)	移動	機中泊
8月30日(金)	移動	機中泊
8月31日(土)	帰国	

## ○クラインガルテン(市民農園) 視察

- ・日時 平成25年8月20日 (火)
- ・場所 クラインガルテンセンター (フランクフルト市)
- ・説明者 フランクフルト市クラインガルテン協会  
Hannelore Dorr 会長



### ・概要

クラインガルテンは一区画当たり250～400平方メートルの敷地の中に24平方メートル程度の小屋を建て、普段のアパート生活から脱出して、野菜、果実、花木などを栽培しながら週末を過ごすための施設で市民農園と言われている。

協会ではクラインガルテンの設置及び管理、相談・指導による協会員の知識の深化、市民が利用しやすい緑地づくり、若者への自然教育等に取り組んでいる。

昔は、「市民生活を守る砦」と言われたが、昨今は週末の余暇の過ごし方が多様化し、利用者の減少や管理の不備などが課題となっている。



## ○アルゼンチン日本国大使公邸訪問

- ・日時 平成25年8月22日 (木)
- ・場所 在アルゼンチン日本国大使公邸  
(アルゼンチン・ブエノスアイレス市)
- ・出席者 県、民間訪問団、岐阜さくらの会等  
約160人



### ・概要

訪問団関係者を歓迎して、水上正史(みずかみ まさし)大使が主催する昼食会が開催され参加した。

9月7日に当地で開催されるI O C総会で2020年のオリンピック開催地が決定することから、東京開催に向けて当地でも機運が盛り上がっていること、また、岐阜県に本社を置き、アルゼンチンに農地約1,265ヘクタールを所有し、安全食品の開発や緊急時の食糧の増産・調達を行う株式会社ギアリンクス(美濃加茂市)に対する支援などについて意見交換を行った。



## ○ギアリンクス・パラデロ農場視察・岐阜さくらの会による 桜の植樹

- ・日時 平成25年8月22日（木）
- ・場所 株式会社ギアリンクス・パラデロ農場  
（アルゼンチン・パラデロ市）
- ・出席者 県、株式会社ギアリンクス、岐阜さくらの会、  
民間訪問団等 約50人
- ・概要

株式会社ギアリンクス（美濃加茂市）が経営するパラデロ農場において、大豆畑などの視察を行った。

株式会社ギアリンクスは、平成11年3月に県が策定した「岐阜県民食糧確保計画」の趣旨に賛同し、純粋な民間企業ながら、安全食品の開発、緊急時の食糧の増産及び調達を使命に設立され、活動を続けている。

平成15年10月に開所され、10年を迎えたパラデロ農場では、大豆、トウモロコシ等の生産を行っている。

また、視察に合わせ、「岐阜さくらの会」による桜の植樹（苗木の15本植樹）も行われ参加した。



## ○アルゼンチン岐阜県人会創立40周年記念式典

- ・日時 平成25年8月22日（木）
- ・場所 セニョール・タンゴシアター  
（アルゼンチン・ブエノスアイレス市）
- ・出席者 県、民間訪問団、アルゼンチン岐阜県人会  
員等 約280人
- ・概要

ブエノスアイレス市内のセニョール・タンゴシアターにおいて、岐阜県側出席者約160名（高原副知事、県議会議員、かやの木芸術舞踊学園ゆきこま会〔以下、「ゆきこま会」と呼ぶ。〕一行約150名）、アルゼンチン岐阜県人会会員等約120名の参加のもと、式典が盛大に開催された。

冒頭の挨拶に立った永田マリオ同県人会会長は、「創立40周年の節目の年に、岐阜県側から約160名もの大訪問団が訪垂されたのは光栄であり、この機を契機に、更なる両国の草の根交流が進展することを期待したい」と述べられた。

また、来賓祝辞に立った渡辺真議長は、「1973年の発足以来、親睦会の開催など会員間の交流促進、日本語学習や日本文化講座の開催等を通じて、アルゼンチン在住の岐阜県人同士の親睦や、岐阜県とアルゼンチンの文化交流にご尽力をいただき感謝申し上げます」と述べた。



なお、式典では、高原副知事より、アルゼンチン社会経済の発展に功績のあった永田マリオ岐阜県人会会長に賞状が手渡された。式辞の後、アルゼンチン・タンゴが披露されるなど、終始和やかな雰囲気の中、式典は盛況のうちに終わった。



(アルゼンチン岐阜県人会)

- ・1973年(昭和48年)に、在亜岐阜県人の親睦を主として、母県並びに世界の在外岐阜県人会と連絡を密にして海外移住者に対する協力活動を行い、強いては日亜の文化交流を目的とし設立。
- ・会員数：70家族、221人(2012年1月20日現在)
- ・会長：永田 マリオ

## ○パラグアイ共和国・イグアス農協役員との面談・農場視察

- ・日時 平成25年8月23日(金)
- ・場所 イグアス農協事務所  
(パラグアイ・アルト・パラナ県)
- ・出席者 県、イグアス農協役員・生産者等 33人
- ・概要



岐阜県へ農産物(大豆)を輸出している同組合員と懇談するため訪問した。

移住の歴史やパラグアイ農業の概況について、イグアス農協関係者の方から説明を受けるとともに、農協施設等を見学した。

懇談は白沢食堂にて、当地で栽培された大豆から作った豆腐料理などを食しつつ、入植から現在にいたるまでの苦労話や、東日本大震災復興支援として大豆100トンの寄付など様々な話に及んだ。2世、3世も育ちつつあり、今後ますます発展していく可能性を感じた。



(イグアス農協)

- ・発足：1961年8月
- ・設備：サイロ、種子サイロ、製粉工場、ガソリンスタンド、スーパーマーケットほか
- ・組合員は全員が日系人
- ・農業の特徴

イグアスでは当初から70年代まではトマト栽培が中心で、夏作トマトの一大生産地として名を馳せたが、国内の栽培農家数の増大に伴って価格の下落が起こり、畑作への転換が行われた。現在では、大豆の生産地として、特に不耕起栽培という新しい栽培方法の発祥の地として、その名が知られている。

「東日本大震災直後には、同組合から岐阜県にあるギアリンクスに「大豆100トンと義捐金」の寄付を戴き、それを豆腐に加工し、被災地に127万丁の豆腐が届けられた。

### ○ブラジル岐阜県人会との意見交換会

- ・日時 平成25年8月24日(土)
- ・場所 Hotel Matsubara 2階 Sala Nagoya  
(ブラジル・サンパウロ市)
- ・出席者 県、ブラジル岐阜県人会等 20人
- ・概要



今後の岐阜県とブラジルとの更なる交流について、ブラジル岐阜県人会役員や元県費留学生(県人会会員)と意見交換を行った。

(ブラジル岐阜県人会役員の名義)

- ・若い人にとって一番人気があり、関心があるのは県費留学である。日本の文化や、自分の父、母、祖父、祖母の文化を知るチャンスを生かそうということで、一番人気がある制度であるので、これからもずっと続けていただきたいと願っている。
- ・上海に県の駐在所があるように、ブラジルにも、是非、岐阜県から職員を置いて、駐在所を作っていただきたい。ただ、厳しい財政状況の中、日本から人を送るというのは大変なので、我々県人会を十分に使っていただき、事務局を利用して、その駐在の代理の仕事のようなものをぜひ任せていただけたら、本当にありがたい。
- ・海外岐阜県人会のネットワークを作り、サンパウロで「第1回海外岐阜県人会サミット」を開催したい。海外の県人会にインターネットを通じて働きかけているが温度差がある。県の支援が必要と感じている。



(元県費留學生の名義)

- ・岐阜で多くのことを学び、現在の仕事に活かすことができた。また自分の祖父、祖母が生活したところを見ることができてうれしい。
- ・日本の先端技術を習得できたことのみならず、日本人ならではの規律性、勤勉性なども学ぶことができた。
- ・県人会が続くためにもお手伝いしたい。そして、私の子にも、孫にも日本のことを伝えていきたい。



(ブラジル岐阜県人会)

(1) 歴史

1913年3月30日 若狭丸で、岐阜県から11家族44名が初のブラジル移住

1938年 「岐阜県人親睦会」としてスタート

1954年 「ブラジル岐阜県人会」に改称

(2) 県人会の活動

ブラジルにおける岐阜県人の活動に対する支援、岐阜県を中心とする日本及びブラジル両国の文化、経済、学術、スポーツ、福祉等による交流の促進を通じて、ブラジルの発展と社会福祉に寄与することを目的とした活動を行っている。(農業高校生の海外実習派遣の受入など岐阜県のブラジル国内での活動に対する協力や、同県人会子弟を対象とする県費留学生の子弟の推薦・派遣、ブラジル国内の情報提供等を実施。)

(3) 会員数

351家族、1,578人(2012年8月29日現在)

(4) 会長

山田 彦次

## ○岐阜県人ブラジル移住100周年・ブラジル岐阜県人会 創立75周年記念式典

- ・日時 平成25年8月25日(日)
- ・場所 ブラジル広島県人会館  
(ブラジル・サンパウロ市)
- ・出席者 県、県内関係市、民間訪問団、  
ブラジル岐阜県人会等 約250人



・概要

サンパウロ市内のブラジル広島県人会館において、岐阜県側出席者約50名(高原副知事、県議会議員、県議会議員、岐阜市、関市、美濃加茂市、民間訪問団一行)、ブラジル岐阜県人会会員等約200名の参加のもと、式典が盛大に開催された。

式典の冒頭、岐阜市より参加された歌手の山田香織(やまだかおり)さんによる君が代独唱の後、主催者挨拶に立った山田彦次(やまだひこじ)同県人会会長は、「私たちは、記念すべき日を迎えたわけですが、言葉の問題や生活習慣の相違等々、苦難の歴史を刻んだ岐阜県人ブラジル移住100周年でもあります。さらには、こうした先輩移住者の皆様方が情報や話題の共通性を持つことにより、故郷を思い出し、日本人としての誇りを忘れない為に、県人会が組織され、創立75周年という大きな節目を迎えました。ここに、岐阜県の皆様をお迎えできたことは、主催者としては、本当にうれしい出来事でもあります。」と述べられた。



また、来賓挨拶に立った渡辺真議長は、「言葉や習慣、文化などが異なる地にあつて。移住初期の方々のご苦勞は言語に絶するものであると思いますが、そうした状況の中でも、堅実に忍耐強く、勤勉という岐阜県人の特性を発揮し、長い年月にわたり幾多の困

難や障害を乗り越え、着実に今日の発展を築いてこられたご苦勞に対し、心から敬意を表する次第であります。」と述べた。

なお、式典では、高原副知事よりブラジル社会経済の発展に功績のあった方へ「賞状」を、ブラジル岐阜県人会の発展に貢献した方へ「感謝状」を下記のとおり手渡した。(敬称略)

賞状：安田 正子 (やすだ まさこ) の1名

感謝状：伊藤 勉 パウロ (いとう つとむ ぼうろ)、

北 幸子 (きた さちこ)、

高木 和博 (たかぎ かずひろ)、

長屋 瀧雄 (ながや たきお)、

長屋 充良 (ながや みつよし) の5名



また、ブラジル岐阜県人会より、永きにわたる海外移住事業や日泊友好親善に貢献があったとして、中南米親善岐阜県議会議員連盟に対して感謝状が授与され、議員連盟を代表して渡辺信行会長が受領した。



最後に、全員で「岐阜県民の歌」を大合唱して閉会した。



※ 式典に先立って先没者法要が執り行われ、参列した。



## ○日本館視察

- ・日時 平成25年8月25日（日）
- ・場所 イビラプエラ公園内日本館（ブラジル・サンパウロ市）
- ・出席者 県、県内関係市、民間訪問団 約40人
- ・概要

中津川市の株式会社中島工務店が、3回にわたって、無償で修復を行った日本館（日本の文化等を紹介する施設）を視察した。



なお、日本館視察に先立ち、イビラプエラ公園内にある開拓先没者慰霊碑において、日本人開拓移民を慰霊する献花を行った。



（日本館）

- ・1954年に建設されたものであり、日系移民が、市制400年を迎えたサンパウロ市へ寄贈したものであり、ブラジルが日系移民を暖かく受け入れてくれたことに感謝し寄贈したもの。
- ・数寄屋造りで、京都の桂離宮を模した建物で、故堀口捨己氏（旧糸貫町生れ）の設計。
- ・美術品の展示室、日本庭園、錦鯉が泳ぐ池などがあり、日本的な催物（生け花、茶道等）会場として利用されている。

## ○移住地視察

- ・日時 平成25年8月26日(月)
- ・場所 さくら高森耕地(旧岐阜県村)  
(ブラジル・グアラレマ市)
- ・出席者 県、県内関係市、民間訪問団、  
ブラジル岐阜県人会等 37人
- ・概要



最初に岐阜県人が入植したことから「岐阜県村」と呼ばれた「さくら高森耕地」を視察した。

同移住地に住んでいる方からは、入植当時から現在至るまで様々な作物の栽培に取り組み紆余曲折を経ながら現在に至っていること。(県関係者が)来訪するという話を聞き、非常に嬉しかったという声をお聞きした。若い世代の担い手も協力して地域を盛り上げる動きがあり、更なる発展が期待できると感じた。

訪問団一行は、移住地をまわり、バラをはじめ同移住地における生産物の説明を受けた。



(さくら高森耕地)

- ・1960年の入植当初は「桜植民地」と呼ばれ、最初に岐阜県人たち(9家族)が入植したことから「岐阜県村」として親しまれた。現在、他府県及び他地域からの入植者も含めて約50家族が在住。60年代半ばの最盛期に23家族だった岐阜県人は現在、4家族のみ。
- ・同移住地は1950年代後半にブラジルに住んでいた岐阜県人、故・足立小平治氏が伯人農業主から購入した土地を「岐阜県村(桜植民地)」として開設することを岐阜県側に提示したもの。59年9月に日本で発生し、犠牲者約5000人の被害をもたらした「伊勢湾台風」の影響もあり、岐阜県では入植希望者を募ることになった。

(出所 サンパウロ新聞、2013年6月12日)

## ○在ペルー日本国大使館表敬訪問

- ・日時 平成25年8月27日(火)
- ・場所 在ペルー共和国日本国大使館  
(ペルー・リマ市)
- ・訪問者 県等 12人
- ・概要



「ペルー岐阜県人会創立30周年記念式典」(28日)、「日本ペルー修好140周年記念ゆきこま会ペルー公演」(27日、20時～)に参加の福川正浩駐ペルー共和国特命全権大使を、行事に先立って表敬訪問し、岐阜県とペルーの交流について意見交換を行った。

高原副知事は、「日本ペルー修好140周年記念ゆきこま会ペルー公演」にご尽力いただいたこと、日頃からペルー県人会がお世話になっていることに対する感謝を述べた。

また、渡辺真議長からも感謝の意を込めて和紙製のテーブルマットを贈呈した。



## ○日本ペルー修好140周年記念ゆきこま会ペルー公演鑑賞

- ・日時 平成25年8月27日(火)
- ・場所 新国立劇場 (Gran Teatro Nacional)  
(ペルー・リマ市)
- ・出席者 岐阜県側関係者、  
ペルー側関係者 約1,500名
- ・概要 平成24年8月、東京での公演(福島県大熊町の被災児童らを招待)を鑑賞したエラルド・エスカラ駐日ペルー共和国大使が感動し、駐日ペルー大使館から「日本・ペルー修好140周年記念公演」として招へいを受けたもの。



### [出演者等]

小学生から社会人までの78人の団員(キャスト)で編成。指導者・付添スタッフ等は34人。



## [演目]

「あららぎは谷を越えてゆく」

- ・30年ほど前に初演したゆきこま会のオリジナル作品で、災害の苦難を、子どもたちが助け合い、大人たちも動かし乗り越えていく絆の大切さを訴える物語。
- ・平成24年8月、東京での「東日本大震災復興支援公演」(福島県大熊町の被災児童らを招待)においても演じられたもの。

## [特記事項]

- ・日本語のわかる日系人の方も多く、フィナーレでは涙を流しながら見る方もあり、アンコールでの日本のうた「さくら」、「ふるさと」も大変好評であった。
- ・ゆきこま会が「ペルー国歌」をスペイン語で歌い始めると、観客は全員起立して斉唱し、国歌の最後に、ペルーと日本の両国旗を掲げると、拍手喝采の嵐となった。



(かやの木芸術舞踊学園ゆきこま会)

設立：昭和45年(岐阜県中津川市にて設立)(※任意団体)

目的：子供のために日本で誕生した児童舞踊を基盤として現代舞踊、バレエ、日本舞踊、民族舞踊等、あらゆる分野のテクニックを作品に取り入れ、表現力、高度な技術、豊かな表情、創造力、集中力、探究心、観察力等がレッスンの中から自然に芽生え、素晴らしい人間力となって世界で活躍できる人材育成を目的としている。

## ○ペルー日系人協会主催日秘修交140周年交流会

- ・日時 平成25年8月28日(水)
- ・場所 日秘文化会館(ペルー・リマ市)
- ・出席者 岐阜県側関係者、ペルー側関係者 約500人
- ・概要

### ① 日本人移住史料館視察(2階)

(日本人移住史料館)

- ・1981年にオープンし、2011年6月にリニューアルされたばかりの史料館。
- ・大正時代に発行されたパスポートや日用品、さまざまな商売道具の他、パネルや写真を多用して日本人移民とその子孫たちの100年を超える日系移民史を分かりやすく伝えている。
- ・展示物には、スペイン語だけでなく日本語の説明も併記されている。



### ② ペルー日系人協会表敬訪問(1階貴賓室)

ペルー日系人協会の山城晃会長他の役員と面談を行った。

(ペルー日系人協会)

- ・ペルー在住の日本人やその子孫を代表して活動する非営利団体。1917年11月3日設立。文化会館や病院経営をはじめ、さまざまな慈善活動を展開している。



### ③日秘修好140周年交流会（中庭・日秘劇場）

岐阜県からの訪問者（約170人）とペルー側出席者（約330人）の総勢約500人が参加した。

ゆきこま会の団員78人と、ペルーの日本語学校・日本人学校の生徒20人、日秘会館内にある「ジンナイ先駆者センター」（早くに移住して日系社会を築く基礎を作った高齢者にリクレーションやケアを提供する場）を利用する高齢者との交流プログラムとして、岐阜県の紹介や、ゆきこま会によるミュージカル主題歌の披露、ペルー側の出し物、子ども同士のプレゼントの交換が行われた。



### ④ペルー日系企業経営者講演会（日秘劇場）



ペルーで有名な炭焼きチキン料理のチェーン店である「Norcky's」の経営者であるタマシロ・カオル氏のペルーにおける日系企業の発展に関する講演を聴講した。

沖縄県出身の2世であるタマシロ氏からは、創業者である父親の当地における会社の基盤づくりに関する経緯や、ペルーにおける外食産業の状況等について話を聞いた。食材の調達等に関する現地の農家等との折衝においては、現地の人達と一緒に考えて考える姿勢で臨むことが大切で、そうした姿勢が受け入れられ、いろいろな課題が解決できたとの話が印象に残った。

### ○ペルー岐阜県人会創立30周年記念式典

- ・日時 平成25年8月28日（水）
- ・場所 日秘文化会館（ペルー・リマ市）
- ・出席者 県、民間訪問団、ペルー岐阜県人会等  
約210人



#### ・概要

リマ市内の日秘文化会館大ホールにおいて、岐阜県側出席者約160名（高原副知事、県議会議長、県議会議員、ゆきこま会一行約150名）、ペルー岐阜県人会会員等約50名の参加のもと、式典が盛大に開催された。

冒頭の挨拶に立った小島隆洋（こじまたかひろ）同県人会会長は、県人会創立の歴史を紹介するとともに、「県人会が創立されて30周年を迎え、高原副知事をはじめ岐阜県の皆様をお迎えし交流を深めることは、この上なく光栄であり、今後も皆様の協力をお願いしたい」と述べられた。





また、来賓挨拶に立った渡辺真議長は、「ペルーは、中南米諸国の中で、最初に日本と外交関係を樹立し、本年は140周年を迎え、伝統的に良好な友好協力関係にあり、その継続のためには、両国の更なる関係強化に努めていく必要がある。また、ペルー岐阜県人会が創立30周年という記念すべき時期を迎え、世代交代が進み移住初期のご苦勞を知る方も少なくなっているとは思いますが、この式典を契機として、先人の偉業を次世代を担う若者たちに語り継いでいただきたい。」と述べた。

なお、式典では、ペルー社会経済の発展に功績のあった人物へ表彰として、高原副知事より、渡辺進（わたなべすすむ）氏に賞状が手渡された。

また、渡辺真議長からは、ペルー岐阜県人会小島会長に和紙製のテーブルマットが記念品として贈呈された。



式辞の後、現地の伝統的なマリネラ踊りや、ゆきこま会によるミュージカル主題歌の披露があり、終始和やかな雰囲気の中、式典は盛況のうちに終わった。



(ペルー岐阜県人会)

- 1983年(昭和58年)7月にブラジルで行われた県人ブラジル移住70周年祭を記念して、岐阜日々新聞社が岐阜県出身南米移住者激励取材班を組織し、アンデス・レインボー号で南米7ヶ国を2ヶ月に渡り取材。これを契機に同年9月16日、「ペルー岐阜懇親会」が結成。
- 会員数：24家族、116人
- 会長：小島隆洋